

2013

平成 25 年 12 月 発行

日本山岳会千葉支部



J・A・C

(第 25 号)

千葉支部だより

発行者 諏訪吉春

編集者 吉野聰

小春日和の分水嶺 記念登山に歓声



房総半島の分水嶺完踏を記念した公益事業のイベントが小春日和の11月23日、館山市の房ノ大山(193メートル)コースで行われ、公募による一般参加者や千葉支部会員、会友ら30人が約4時間の山行を楽しんだ。

この日は、館山市見物の「西岬」から分水嶺尾根に取り付き、房ノ大山を巡って「坂田」に下山した。途中、木立の間から東京湾や波光きらめく太平洋が見えると「ワーッ、きれい」と歓声が上がった。カサカサと落ち葉を踏みしめ、ルビーのような赤い実のヤブコウジや黄色い花をつけたツワブキに疲れを忘れて歩いていた。 =2面に続く= (三木雄三)

参加者 >▶石岡慎介▶宇津木仁典▶小澤けい子▶坂上光恵▶塩沢厚▶杉本正夫▶鈴木美代▶諏訪吉春
▶高橋正彦▶谷内剛▶能美勝博▶船木元▶三木雄三▶柳下忠義▶山口文嗣▶山崎完治
▶吉永英明▶渡邊信一 (敬称略)

天気にも恵まれ良い思い出

天気にも恵まれ暖かな小春日和、房総の山の楽しさを満悦した一日。県内の各地から参加した皆さんから今日の感想を聞いてみた。

千葉市緑区から父親と参加した最年少の小学生、林龍太郎君(10)は、真っ白な富士山や伊豆大島が見える山頂に到着すると「木につかまりながら歩いて、疲れて嫌だなーと思ったけど、道や海が見えて、また行きたくなった」と汗を拭って楽しそう。



「尾根からの太平洋」

船橋市から参加した小松泰山さんは「千葉日報の記事を見て参加を申し込んだ。以前から房州の山を歩いてみたかったが、コースが難しいため断念していた。今日は実現できて良い経験となった」。

旭市の石井勝也さんも「長柄町の最初の回に参加してしてから三度目の参加です。今回は『まとめ』となるので、ありがたかった」。

また、ハイキング仲間だという千葉市美浜区に加藤光子さんと八街市の佐久間幸子さんも「おもしろいコース。海と空の景色がすばらしい」「お天気に恵まれて最高の山行でした」。

いすみ市の吉野真治さんは「誰にも会わないすばらしいコース」、地元館山市の五十嵐仁美さんも「一人ではなかなか歩けない道を歩いて楽しかった」と、感想を話してくれた。



「ツツブキの花」

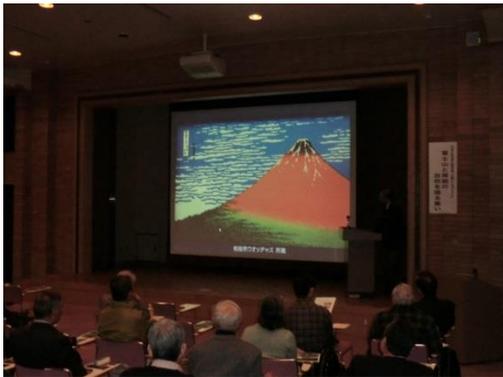
イベントの案内は東京新聞、千葉日報に大きく紹介されたほか、当日の様子も千葉日報、読売新聞に掲載された。

富士山と房総の自然を語る集い

日本山岳会千葉支部主催の「富士山と房総の自然を語る集い」が12月7日に千葉県立中央博物館で開催された。当日は、富士山が今年6月世界遺産に登録されたこともあり、山岳会員のほか自然環境に関心のある人や、富士山好きの人たちが多数参加した。

富士山と房総は、熱帯型常緑広葉樹林（照葉樹林）の北限に近く、熱帯と温帯の共通する生物相を持ち、文化的にも遠く中国南部、ヒマラヤにつながっている。

第1部は、日本山岳会会員で元東京大学教授の大澤雅彦さんが「世界の植生から見た房総と富士山、そしてヒマラヤの自然」と題した基調講演。



第2部は、千葉県立中央博物館の高橋直樹さんと中村俊彦さんから房総と富士山に関わる、地質や地形、景相について話題提供。

第3部は、総合討論。講師の話をもとにヒマラヤ山麗の文化・風習、山と海の自然環境と保全、房総半島の隆起等多岐にわたる討論が繰り広げられた。

千葉市から参加した小林悦子さんは、「ダイナミックな柱を立てて自然と人間のかかわりをわかりやすく話してくれた。とても面白かった」林みね子さんは「日本と違う山の写真や、亜熱帯から日本にかけての植生の話を聞いて、世界が広がった。」また、松本雅明さんは「房総と富士山のかかわりがいろいろと分かった。また、ヒマラヤと房総半島が植物相や文化などで繋がっているという夢のような話を聞き、雄大なロマンを感じました」と語っていた。

(吉野聡)

日本山岳会千葉支部は会員・会友を募集しています

問い合わせ先

諏訪吉春

三木雄三

爽やかな油絵展と温暖化に警鐘鳴らす写真展

千葉支部会員、後藤三男さんの油絵展「安曇野紀行」と、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラストと千葉支部の公益共催事業、写真展「ヒマラヤ 変わり行く景観」が9月中旬、千葉市中央区の社会教育施設きぼーるで開かれた。

後藤さんは昭和6年生まれだが、まだまだ元気。今回も大町の山岳風景を描いた「北安曇野の春」や「北アルプス冠雪」、穂高町の「安曇野の秋」、さらにイタリアの「グランドジョラス南陵」、ネパールの「タムセルク」、そして地元の「印旛沼」など約50点を展示した。



作品に取り組む姿勢について「山に感動すること。美しいものに対し素直に感動すること。そうすると、自分の体内で感動が生命力のように熟成してくる。それを一気に描き上げる」と話す。

「信州には原風景があります。もう50年も通い、描いているが、まだまだがっぷり四つに組んでしがみついているんですよ」と笑顔をみせた。

また、ヒマラヤ写真展は、地球温暖化の影響で減少した氷河の現状や、近代化が進む中で、大気・水の汚染で自然環境が変わりつつあるヒマラヤを50年前と現在を定点観測で対比し、53枚の写真と詳しい解説で紹介した。

四街道市で温暖化防止活動を行っているという女性は「新聞の予告記事で写真展を知り、興味があつて来た。氷河が溶けて大きなダムのようにになっている様子に驚いた。文化・文明と自然環境とのバランスを考えていかないと不安です」と展示写真に見入っていた。同展で千葉支部は会場設営や来場者の案内、撤収に協力した。（三木雄三）



第29回全国支部懇談会に参加して

支部長 諏訪 吉春



第29回全国支部懇談会が静岡支部主催のもと、10月20日～21日にかけて「ホテルアソシア静岡」にて、全国から193名の参加者（内、静岡支部60名含む）が集い盛大に開催されました。昨年、千葉支部主催で第28回全国支部懇談会を開きましたが、月日の経つのは早いものでもう一年が経ちました。

当日は早朝から生憎の雨となりましたが、記念講演会及び懇親会等には支障なく、主催者を代表して前静岡支部長の久保田保雄氏が歓迎の挨拶。さらに来賓の静岡市長の田邊信宏氏の挨拶等が続き、講演会は1部が静岡支部永年会員の長田義則氏の「日本山岳会の今昔」、第2部が同支部元支部長の安間荘氏の「富士山におけるスラッシュ雪崩と雪崩による大量山岳遭難事故」、その報道に関する、同支部元支部長の児玉隆一氏の「富士山大量遭難その報道と波紋」と続き、大変興味深く拝聴いたしました。

お楽しみの懇親会は同ホテル内の会場で午後6時より開催されました。本部の年次晚餐会方式の丸テーブルで、我々は南アルプス最深部の山「光岳」と書かれたテーブルに着席。美味しいフランス料理とビール、ワイン、各支部から自慢のお酒を戴き楽しく歓談しました。

翌日の山行は昨日の悪天候とはうって変わり、晴天の下、私は3コースのうち、富士山スカイライン2合目の高鉢駐車場から西白塚駐車場までのルートをキノコを探しながらの楽しい散策を致しました。お陰様で実に楽しく富士山の魅力に触れ合う事ができ、静岡支部の皆様には大変お世話になりました。

あらためて、感謝申し上げます。
千葉支部参加者>諏訪吉春、佐藤明夫、石岡慎介、結城純一、鈴木美代（敬称略）

ダーズリンからカンチェンジュンガを眺めて

(世界第三位の高山 8586メートル)

小澤 けい子

10月5日～12日に女性七人で深夜羽田発バンコク経由カトマンズに入る。二日目はネパールの国内線でインドへ。緑溢れる田園地帯の中にある小さな飛行場から2台の車に分かれ国境へ。インドでは入国手続きに時間を取られた。

シッキム州のガントクへ6時間の車での移動、広大な茶畑から山道に入る。夕方からガタガタ道で大変な揺れに遭遇しながら暗い夜道を走る。やがて山を超え川沿いを走り、シッキム州の検問所へ。40年前には王国だったとのことで、チェックが少し厳しいようだ。再び谷底から山へと暗い夜道の中を走り、夜9時過ぎにホテルに着いた。

翌朝は標高1437メートルにある街に二泊する。6000メートル級の白い山並みを見ながら市内観光や寺院などを見学した。

ダーズリンに向けて移動する。一気に山を越えて谷底にある検問所に寄り、川沿いの道をしばらく走り、山道(悪路)の中、グングン高度を上げていく。車窓からは沢山の茶畑があり、紅茶での有名なダーズリンティーを生産している茶畑が見られた。

ダーズリンの町へ入ると世界遺産になっているトイ・トレイの線路沿いの道を走る。線路幅わずか610ミリと細い。開業1881年、アジアで一番古い登山鉄道だと言われている。



ダーズリンで三泊して世界第三位カンチェンジュンガを眺めたり、トイ・トレイに乗ったり、御来光で有名なタイガーヒル、エベレスト初登頂したテイジン・ノルゲイが造った登山学校やシベリアンタイガーがいる動物園、紅茶工場などを見学した。

ダーズリンはヒマラヤに連なる標高2134メートルの町で昔はイギリス人の避暑地だった。カンチェンジュンガの山並みをホテルの窓から朝夕に眺め、特に朝焼けの光景は最高で、トイ・トレイの沿線から見えるカンチェンジュンガが異郷に来ていることを感じさせる旅だった。

スパゲティルートとモンテ・ローザ

坂上 光恵

今夏、予定していたパキスタン行きがダメになってしまったので、以前から登りたいと思っていたモンテ・ローザに急遽行くことにした。8月16日ジュネーブからツエルマット経由で時差と体調を整える為シュワルツゼーまで入る。ここは、前に山スキーのオートルートを通った時に泊まった所で、いろいろ思い出があるので楽しみにしていた。目の前がマッターホーンで360度周囲の展望が楽しめ、Peaceful Placeとよんで、私のお気に入りの場所。翌日はヘルリ小屋(3260)から、マッターホーンのルート偵察に上がってみると、フィックスロープがしっかり張られている。一人の日本人が下りてきて「時間切れであと少しのところをガイドに下ろされた」と怒っている。ちなみに千葉の人だった。8月18日ゴンドラでクラインマッターホーンまで上がり、高度順応でブライトホーンに登る。ここからは雪上の世界。手軽に行けるので、たくさんのパーティーがいてびっくり。ここからはスイスからイタリア側に入る。ゆっくりと1時間半ほどで頂上(4165)へ。ここから殆どの人たちはもどるが、私たちは山にそって東に進み、アヤス H(3420)へ下りる頃から天候が変わり、明日越えるカストーレ山がよく見えないほどガスってくる。翌日は雪のなか6時30分出発。雪壁を越えているうちに雪が止んだが、視界は20メートル位。10時23分頂上(4228)。12時25分セラH(3585)。8月21日天気が少しずつ良くなって来る気配。今日は4パーティー登って行く。途中凍っているところでなかなか進まないパーティーがあり時間がかかってしまうが何とかパス(4272)越え、15時30分グリスティ H へ。イタリア側の小屋からつぎつぎ山を越えて行くのを、[スパゲティルート]と呼んでいるというので、なるほどと納得。



8月21日いいよいよモンテ・ローザ山域に入っていくのだと思うと、わくわくしてしまう。朝から快晴で昨日のルートを途中まで登り返し、ピラミッド・ヴィンセントを越えヨーロッパ最高地点にあるマルゲリータ H(4554)へ。マルゲリータ女王の命令で作られ多くの人達がここを目的に登ってくる。水も全てヘリで運ぶそうだ。8月22日晴れ。6時ヘッドランプをつけて出発。少し下りてから登りになり、遠くにマッターホーンを中心にアルプスの山々が連なっているのがよく見える。ここまでは何パーティーかが登ってきたが、雪稜にさしかかると多くの人達が引き返してしまう。結局7人がスタートした。両足が並んで置けないような狭い稜線で、両側がスパークと火花を散らしている。ただただ前を見て必死に進む。やっと岩に取り付くと雪がまだ凍り付いている。そしてまた、戸隠山の蟻の戸渡りのような雪稜と岩登りを3回くらい繰り返して、11時30分やっとモンテ・ローザ山群の最高峰デュフォール・スピッツエ(4609)にたどり着く。なかなか手ごわかった。直下のゴルナー氷河までロープで下り、グレンツ氷河との合流点にある近代的なモンテ・ローザ H(2383)に着いたのは17時。疲れたが、満足感でいっぱいだった。

(注) 文中の (数字) は標高
Hはヒュッテ

(特集) お勧めの正月の山

波木 正司

10代の後半より、山登りを覚えた私は、正月は山が定番となった。おかげで日本の3000m級の山は、正月にほとんど登っている。しかし、50歳を過ぎた辺りから、天幕を背負っての山行が次第にきつくなり山小屋の利用ができるコースへ写真撮影を主目的としての山行が多くなった。山岳写真同人「四季」の会員となり中版カメラを背負い山へ通いました。

お正月に手軽に登れるお勧めコースは、なんと言っても富士山の眺められる山が良い。首都圏の千葉、埼玉、神奈川、そして静岡、山梨の山である。此処では降水量の少なさと、日照時間の多さが、全国トップクラスの山梨の山のうち、会友の方でも手軽に登れる山をご紹介します。

まず、三つ峠。昭和30年代に山梨県内のハイキングコースとして大菩薩峠と共に人気を二分した、富士山眺望の絶好地である。富士急の三つ峠駅からのルートのほか、河口湖の船津より（ロープウェイ利用も可能）の西川ルートや母の白滝コース、そして今はほとんど利用されない笹子コース等がある。

日帰りも充分可能だが、三つ峠山荘や四季楽園に宿泊すれば、目の前の富士山が朝、夕の素晴らしい姿をカメラに収めることができる。但し正月は富士山の写真愛好家が多く入るので、予約が必要であろう。

其の他、富士山を眺める山は、中央線の駅から直接登れる扇山、百蔵山、高川山、本社ヶ丸、滝子山等があるが、本栖湖の近く正月にダイヤモンド富士が見られる竜ヶ岳も近年人気である。また山中湖近辺の石割山、御正体山、杓子山、鹿留山なども手軽に登れる山であるが、時期が時期であるから、登山道が凍結の処もある。軽アイゼン等の準備も必要であろう。

以上、私が登った（正月に限らず、桜、紅葉の季節も含め）山の一部をご紹介します。千葉支部に、写真クラブ創設の気運ありと仄聞しました。その節は仲間に入れてください。

そして八ヶ岳南麓に（娘が）所有する我が家のマンションに宿泊し山を撮りませんか。居間からは富士山を正面に、甲斐駒岳、鳳凰三山は居ながらにして全容を眺められます。北岳は地蔵の上に頂を覗かせ、仙丈岳は甲斐駒摩利支天の奥にその姿を見せてくれます。北側の部屋からは八ヶ岳が臨め、戸外へほんの5分程足を運べばその全貌を惜しげもなくあらわに見せてくれます。いずれの山も厳冬期に登った山々です。

特集へのご投稿有難うございました.....編集委員会一同

大菩薩嶺、牛の寝通り

期日 11月9日(土)

参加者 >小澤けい子、黒田正雄、諏訪吉春、高橋琢子、柳川しげよ、山口文嗣〈敬称 略〉

11月9日～11月10日で「大菩薩嶺、北尾根」が企画されていたが、10日に悪天候が予想されたため中止となり、急遽日帰りでの「大菩薩嶺、牛ノ寝通り」が実施された。

甲斐大和駅で全員が集合し、バスに乗り小屋平へ。10時10分登山開始。山肌にはカラマツの黄葉がまだ少し残っているが、足元には既に茶色になったミズナラやカラマツの落葉がいっぱいの穏やかな登山道、晩秋を感じる。

大菩薩らしい笹尾根の空間が開けると、11時25分石丸峠到着。ここが本日の最高地点。これより先はずっと下りとなる。小金沢連嶺への分岐からはいよいよ「牛ノ寝通り」へ。黒田リーダーより「下るにつれて植生が変化していくのでよく観察するように」とのお言葉。その言葉通りにカラマツはなくなり、雑木林の自然林となった。

12時40分三角点のある榎ノ尾山にて昼食。なんと諏訪支部長がおでんを担ぎ上げていた。晩秋の山に温かいおでん、う～ん美味。その後ひたすら続く下りだが、途中からモミジが

加わり赤・黄・緑のコントラストが素晴らしく度々写真タイムとなった。高さ20mはあろう木々の豊かな森は、包み込んでくれるような空気感とザッザッと落葉を踏む音として私を癒してくれた。そして、その森の中を黒田リーダーが仙人のように下っていく。長い下りで足が重くなりだんだん遅くなる女性陣は、仙人を羨望の眼差しで追った。

15時15分、最後の分岐で小菅の湯へと向かう。ここからの急な下りは、これまでの優しい森から一変、暗い植生の杉林となった。重い足が更に重くなる林に、人の手を加えたことの意味を思う。そして、山を下りきり、ようやく民家のある所へ。そこには、真っ赤なモミジの大木が私たちを待っていてくれた。感動。

16時、小菅の湯に無事到着。今回の山行ではマニアックなルートだということに、黒田さんのお仲間のメモが道標にはさんであったり、偶然出会った人がいたり黒田パワーを再認識！本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。(高橋琢子)



「石丸峠にて・・・黒田写す」

金時山へ晴香園の子どもたち

期 日 2013年9月22日(日)

参加者 >晴香園 生徒6名 職員2名

三木雄三、小板橋志朗、田代貴征、結城純一、熊谷侑子(結城さんの友人)、豊倉さと子、柳下忠義、山崎完治、高橋琢子、柳川しげよ、櫻田直克、小澤けい子 (敬称 略)

8時30分に新宿駅西口から金時神社行きのバスに乗ると、三連休の渋滞につかまってしまった。バスに揺られること約3時間半、ふもとに到着したのは12時過ぎ。予定を変えてふもとで昼食を済ませ、13時ころ登山開始。天気は曇り気味だったが、暑すぎず、寒すぎず、山を登るにはちょうどいい気温だった。

登り始めてすぐ、昔話に登場する金太郎が手まりにしたという岩を発見。さらに登り進むと、金太郎が真っ二つに割ったとされる巨大な岩も横たわっていた。たくさんのお話が詰まった不思議な山に子供たちは興味津々。岩の割れ目に何があるんだろうと臆することなく中まで探検に行く子も。

三連休の真ん中ということもあり、多くの登山客とすれ違った。すれ違うたびに、子供たちも元気よくあいさつ。登り進めるうちに雲が晴

れて日が差し、眼下には仙石原のススキが見えた。美しい景色に励まされ、急こう配のラストスパートを何とか上りきる。山頂に立つと、富士山を遮っていた雲が流れ、富士山の山頂だけかろうじて拝むことができた。予定通りの登山とはならなかったが、途中で日が差し、最後にはなんとか富士山も見ることができた運の良さ感謝したい、そんな金時山登山となった。

今回は、三木リーダーが、持参した茶碗を示しながら「ぼくたちは今、茶碗の内側にいるんだよ」と、カルデラ地形を子供たちに説明。山頂から仙石原や芦ノ湖を取り囲む外輪山の様子に、子供たちからは「本当に茶碗のように見える」の声も聞かれた。小板橋さんが振舞った温かいカップ麺も大好評だった。

(熊谷侑子)



サテライトからの報告

佐原の祭り堪能 四水会

水郷は早場米地帯。江戸へ運ぶ米を積んだ舟が行き交った利根川支流の小野川が、この街を本宿と新宿に分ける佐原。その新宿で行われるのが「秋の大祭」だ。

秩父、川越と並び関東三大山車祭りの一つとされ、300年の歴史がある。昭和天皇がご覧になった神武天皇や小野道風、楠正成など大きな人形や豪華な彫刻が施された山車。今年は各町内から14台が勢揃い。山車の動きや「小江戸」と呼ばれた粹な土地柄で育った娘たちの手踊りが見ものだが、激しく、時には哀愁を帯びた佐原囃子の音色も心にしみる。佐原の人たちは三日三晩、何もかも忘れて祭りに命を燃やす。10月12日、祭りを楽しむ四水会の企画には会員、会友ら15人が参加した。高橋(正)さんの音頭で乾杯。昼食を済ませて江戸の面影が色濃く残る町に繰り出した。



さすがにプロ、結城さんは撮影に忙しく、気が付くと佐藤さんの姿が見えない。「山車にひかれて道に迷った」とか。共同通信元千葉支局の長澤さんも駆けつけ、千葉の山談義に花が咲く。地元の宮永さんら町並みボランティアの方々には、今回もお世話になった。

(三木雄三)

懇親会の夕べ 一酔会

支部会員・会友の定期的な情報交換や懇親の場がサテライト。市川・船橋・浦安も9月4日を第一回目として発足。今後は奇数月の第一水曜日に開催する事として、会の名称を「一酔会(いっすいかい)」と名付けました。



11月6日に二回目の懇親会を実施し、15名の会員・会友が集まりました。開催場所は JR本八幡駅北口の居酒屋「上喜源(じょうきげん)」。みんなで美味しい料理と酒を堪能しました。

今回も、山本会員がパソコンを持参し、紅葉のスライド写真に皆さん、直ぐに反応し、「あれは何山、これはあそこの山」と大いに盛り上がりました。能美会友の美しいお嬢さんが飛び入り参加。枯れ木に花が咲く如く、やはり女性の力の偉大さを感じた次第です。次回は3月5日に開催予定ですので、サテライト地区にお住まいの方に限らず、女性会員・会友の方の参加を大いに歓迎いたします。(諏訪吉春)

新入会員・会友のコーナー

こんにちは

会友 香高 真奈美



「みんなと一緒に山、歩かないか!」。千葉の美弥和で働き始めたころ、お客さまとして来店していた吉永さんや三木さんが声を掛けてくれました。

それまでは娘たちと日光の鳴虫山に登ったり、岐阜の金華山に登り、お城を訪ねたりしていましたが、一緒に登る人たちがいたら、「どんなに楽しいだろうか」と常々思っていました。それなので今は、皆さまと色々な山へ行くことができ楽しいです。丹沢ではヒル対策を教えてもらい、鎌倉アルプスではそれまで知らなかった「山の鎌倉」に驚きました。山登りの後の温泉付きの山も良いですね。

失敗もありました。夏の富士山お中道歩きでは、自分の体調管理の悪さを思い知りました。バスで五合目に着いて歩き始めてからだんだん具合が悪くなってきました。やっと大沢崩れの小屋に着くころには頭がガンガン痛くなり、目的である「大沢崩れ」を見に行くのはあきらめました。睡眠不足だったみたいです。

帰り道では私のリュックサックを担いでくれた人、ストックを貸してくれた人など、皆さまのお世話になり、さらに励ましのおかげで回復しました。山の仲間から心から感謝です。元気が出てくると、山道にたくさん咲いていた淡いピンクのシャクナゲがとてもきれいでした。

私の2人の娘たち(24歳の長女、会社員、立川市在住、21歳の大学生の次女)も、たまには山行に入れてもらっています。次の山行が楽しみです。母娘ともども、どうぞよろしく願いいたします。

千葉支部自然保護委員会の立ち上げ

自然保護委員長 鈴木 美代

“自然保護”という言い方には抵抗のある方がいらっしゃるかもしれない。そもそも自然というものは人間が保護することができるようなものなのか…。という議論は取りあえずおいて、日本山岳会では“自然保護活動の推進”を、会の主たる事業の一つと位置づけてきています。千葉支部でも発足以来、自然観察会を中心に活動を行ってきましたが、身近に誰もが納得する自然保護的テーマが少ないせいか、やや盛り上がりには欠けていた気がします。

今年度、支部新体制がスタートしたのを機に、自然保護活動の活発化を目指して、複数委員による自然保護委員会を立ち上げました。10月3日に第一回自然保護委員会を、鈴木、黒田、篠崎の3名にて開催しました。現在は、これに安間を含めた4人体制ですが、多くの知恵と意見を結集するため、さらに多くの方のご参加を求めたいと思っております。

今後の活動方針は、

- 1; 誰でも参加できる活動に
- 2; 多くの意見と知恵を集めて

本来、支部活動は支部会員すべてに開放されていますが、なんとなく距離を感じている方もいらっしゃるかと思います。自然保護委員会

では、多くの皆様の知恵を集めてより有意義な活動を行っていくため、やってみたいテーマをお持ちで協力者を求めている方、山の自然に親しみながらなにか始めてみたい方を募集します。どんどん知恵と意見をお寄せください。そして、そのテーマに限定してでも結構です。ぜひ活動にご参加ください。

具体的な活動案

1; 自然観察

まずは知ることから、という訳で、従来より行っている自然観察活動をさらに展開していきたいと思えます。

千葉の自然を知る、地質、地形、植物など。銚子のジオパークの見学なども考えています。

2; ボランティア活動

いきなりの独自活動は難しいので、すでに活動している団体と提携できたら、と考えています。たとえば、千葉の里山保全活動を行っているNPO活動への参加、青少年を対象とした自然観察会など。

このほかにもいろいろやり方があると思えます。提案を期待しています。

平成 25 年度第 7 回三支部(栃木・茨城・千葉) + 群馬支部

合同懇親会のご案内

恒例の三支部(栃木・茨城・千葉)合同懇親会を下記のとおり開催することになりました。今回は、本年 7 月に設立した群馬支部も参加して四支部での開催となります。

期 日:平成 26 年 2 月 1 日(土)~2 日(日)
会 場:国民宿舎「かじか荘」 日光市足尾町
銀山平 TEL 0288-93-3420

参加費:14,000 円

※ 内訳:宿泊費(1 泊 2 食、宴会費)2 日
目の昼食、見学料、雑費等

日 程:

2 月 1 日(土)

12:30 JR 日光駅前集合(マイクロバス等で足
尾公民館へ移動)現地集合の場合は直接
足尾公民館へ

13:30 受付(足尾公民館)

14:00 開会行事

14:30~15:30 記念講演「足尾銅山の歴史
—光と陰—」

15:45~16:30 足尾歴史館見学

16:30~17:00 国民宿舎「かじか荘」へ移動
(マイクロバス等)

18:30~ 懇親会・宿泊

2 月 2 日(日)

7:00 朝食

8:00~8:20 舟石峠駐車場へ移動(マイク
ロバス等)

8:20~10:30 備前盾山登山※

10:30~11:00 足尾銅山観光へ移動(マイク
ロバス等)

11:00~12:00 銅山観光(ガイドによる説明)

12:30~13:30 昼食「植佐食堂」食後解散
JR・東武日光駅へマイクロバス等で移動
(14:30 到着予定)

注意事項

※備前盾山登山の際には冬山の装備を忘れ
ずに用意して下さい。

※1 月 20 日以降のキャンセルの場合 8,000 円
のキャンセル料が発生します。

※申込の際、氏名、会員番号、連絡先電話番
号、電車利用か自家用車利用かをお申し出
下さい。

申込締切日:12 月 23 日(月)

申込先:谷内 剛

役員会の報告

9月報告 9月24日(火) 市川アイリンク

出席者 11名 (敬称略、五十音順) (協)協力委員 以下各回同様
岩尾、小澤、黒田(協)、坂上、鈴木、諏訪、豊倉、谷内、山口、結城、吉野

1 報告事項

- ・ 本部からの連絡 (支部活性化プロジェクト 助成金について)
- ・ ヒマラヤ写真展(きぼーる)
- ・ 公益事業(晴香園児童 金時山)
- ・ サテライト報告(市川、船橋、浦安地域)

2 行事予定

- ・ 第29回全国支部懇(10/20~21、静岡市)
- ・ 300名山取材(荒船山、榛名山 10/26~27) ・ 佐原大祭(10/21 四水会)

3 検討事項

- ・ 次年度海外山行 ・ 房総半島分水嶺記録の出版
- ・ 支部山行実施要領作成 等

10月報告 10月22日(火) 市川アイリンク

出席者 12名

小澤、黒田(協)、小坂橋、坂上、鈴木、諏訪、三木、安間(協)、谷内、山口、山崎、結城

1 報告事項

- ・ 全国支部懇(静岡)に当支部から6名参加
- ・ 佐原大祭に会員・会友14名参加

2 行事予定

- ・ 大菩薩嶺北尾根(11/9~10)
- ・ 千葉支部主催の公益事業として「富士山と房総の自然を語る集い」を開催(12/7)

3 検討事項

- ・ 支部山行実施要領 ・ 会員会友名簿の作成 等

11月報告 11月26日(火) 市川アイリンク

出席者 10名

出席者：小澤、黒田(協)、坂上、鈴木、諏訪、三木、谷内、山口、山崎、結城

1 報告事項

- ・ 300名山取材(諏訪山) ・ 大菩薩(牛ノ寝通り) ・ 公益事業(晴香園児童 高水山)

2 行事予定

- ・ 「富士山と房総の自然を語る集い」12/7 千葉県立中央博物館
- ・ 300名山取材 丹沢・搭ノ岳(12/14~15) 荒船山(12月中)
- ・ 房総半島分水嶺踏査記念誌出版

3 検討事項

- ・ 支部山行実施要領
- ・ 会員・会友名簿作成 ・ 会員・会友間の連絡体制 ・ 会員・会友の増強 等

1月以降の行事予定(1月~3月)

行先	日程	締切	連絡先	備考
冬の手賀沼	1/18(土)	12/20(金)	黒田正雄	手賀沼 10 キロ 歩こう
富山西尾根	1/26(日)	1/20(月)	山口文嗣	新年山行
備前楯山 足尾銅山	2/1(土) 2/2(日)	12/23(月)	谷内剛	三支部+群馬 支部 合同懇談会
高峰山・黒班山	3/8(土)9(日) 10(月)	2/28(金)	坂上光恵	高峰高原日大 WV部山小屋
鋸山	3/23(日)	3/5(水)	小澤けい子	公益事業 「晴香園」

●自然観察会開催のお知らせ

日時 2014年2月5日(水)
場所 高尾の森(高尾の森作りの会作業地)
目的 樹木の冬芽観察
応募・問い合わせ先 鈴木美代

締め切り 2014年1月10日

樹木の指紋、とも言われる冬芽の観察をしませんか?高尾の森作りの会の、自然観察グループの方に同行させて頂き、作業地の森の木々を観察します。お持ちの方はルーペをご持参ください。参加者には1月半ばまでに詳細ご連絡します。

●会員の消息

吉永英明会員が日本ネパール会の会長に就任しました。

●投稿歓迎

皆さんの原稿をお寄せください。写真、イラスト、400字程度。

編集後記

支部だより第25号をお届けします。2013年もあとわずかとなりました。
千葉支部も房総半島分水嶺の完全踏査、台湾・雪山遠征等実り多い年でした。
2014年、千葉支部の更なる発展を目指すとともに、皆様には良い年となることをお祈りいたします。

広報委員会 委員長 吉野聡